



JASDAQ

平成21年1月29日

各位

株式会社 焼肉屋さかい  
代表取締役社長 緒方 智  
(JASDAQ・コード：7622)  
問合せ先 取締役管理本部長 乗松 康弘  
TEL：052(910)1729

## 特別損失の計上及び平成21年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年3月期第3四半期会計期間におきまして、特別損失の計上をすることとなりましたのでお知らせするとともに、平成20年10月30日付の当社「平成21年3月期 第2四半期決算短信（非連結）」にて発表いたしました平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）通期の業績予想について、下記のとおり修正することとなりましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の発生とその内容について

当社は、収益力及び資産効率の向上を図ることを目的に、平成21年3月期までに不採算店舗3店舗の閉鎖及びその他遊休資産の売却、除却等を行うこととし、当該店舗等の閉鎖および売却等に伴い発生する損失見込額及び減損処理等により、特別損失として143百万円を計上することとなりました。

#### 2. 平成21年3月期通期業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回修正予想 (A)	10,678	795	884	924
今回修正予想 (B)	10,500	564	601	463
増減額 (B-A)	△178	△231	△283	△461
増減率 (%)	△1.7	△29.1	△32.0	△50.1
前期実績 (平成20年3月期)	11,467	813	688	654

#### 3. 通期業績予想の修正の理由

通期の業績見通しとしましては、第2四半期末時点での発表値との差異に加え、第3四半期における売上高が伸び悩んだため、売上高および各利益におきまして修正するものであります。

売上高の減少理由といたしましては、米国大手投資銀行の経営破綻を契機とする昨年9月以降の金融情勢の悪化を受ける形で、国内における消費活動も著しく低迷しており、当社といたしましても10月度以降の第3四半期において、お客様の来店を促すため「生活応援キャンペーン」等の販売促進活動や一部店舗にて先行して行っておりました新メニューを全店に導入するなど行ってまいりましたが、市場環境は厳しく、忘年会や各種宴会等の年末需要におきましても、近年にはない鈍い出足とともに宴会等予約数も減少し、第3四半期累計期間においては、既存店ベースの客数におきまして90%前半で推移したことが主要因となりました。

また、利益面におきましては、平成20年10月1日付にて新たに取得いたしました店舗資産において、「焼肉屋さかい」へ業態変更を行いました。この業態変更については、次期以降に計画しておりましたが、前倒しにて業態変更を実施したことで、休業期間が発生したことによる収支収益の減少に加え、改装費用

等の発生による費用増加と上記に記載しております不採算店舗の閉鎖やその他遊休資産の除売却などによる特別損失の発生見込みによるものであります。

当該の要因による収支収益の減少部分において、各事業所単位では人件費をはじめとする管理可能費用の削減に努め、間接部門におきましても、減少人員の補充を控えるなどコスト発生の抑制努力を行ってまいりましたが、利益面において平成 20 年 10 月 30 日付「平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算短信（非連結）」にて発表しております通期業績予想について下回る見通しとなったため、平成 21 年 3 月期の通期業績見通しとしまして、売上高 10,500 百万円（1.7%減）、営業利益 564 百万円（29.1%減）、経常利益 601 百万円（32.0%減）、当期純利益 463 百万円（50.1%減）に業績予想を修正いたしました。

#### ※将来に関する記述等についての注意事項

本資料に含まれる将来の見通しに関する事項は、現時点での入手可能な情報に基づいて作成したものでありますが、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は今後の様々な要因により、これら見通しとは大きく異なる可能性があります。

以上